

令和5年度(2023年度)花さきデイサービス 事業報告

1.施設の概要

事業の種類	介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業・通所介護事業	
定員	通所介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業	合計20名
対象	要支援 要介護と認定された方	

2.職員配置

(1)職種別人員

単位:人

職 種	専 任	兼 任
管理者	0	1
生活相談員	0	2
介護職員	3	1
看護職員	0	3
機能訓練指導員	0	3
調理員	1	0
合計	4	10

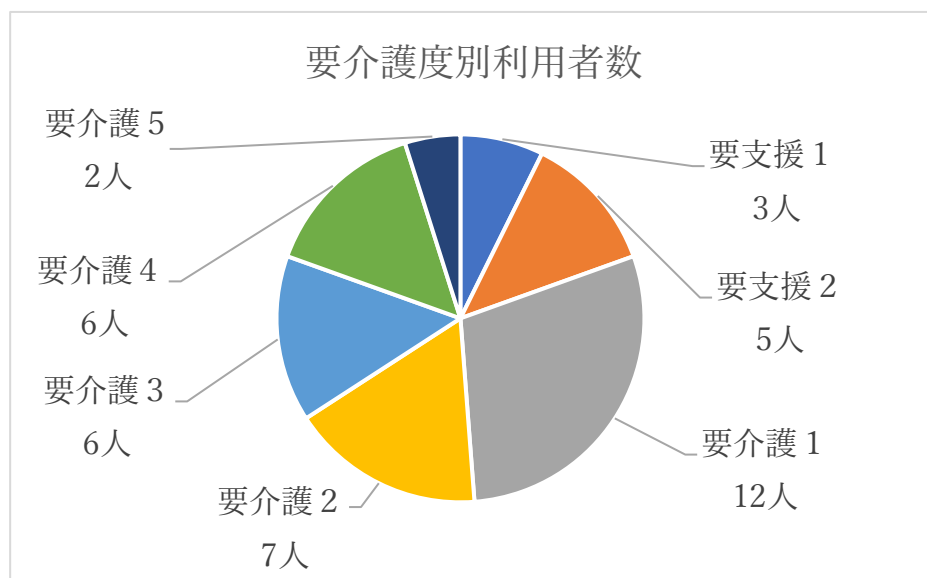
3.一日の流れ

時 間	項 目	内 容
8:00	朝礼迎いの車準備	利用者の確認、順次迎いに出かける
9:00	送迎車到着	順次到着し職員が出迎える
	健康チェック	看護職員が血圧、体温、脈拍を測定しケアカルテに入力する
	朝礼	
10:00	脳トレーニング	計算問題や間違い探しなど脳トレーニングを行う
	入浴	入浴希望者に入浴介助の提供を行う
	個別機能訓練	個々の目的に応じた機能訓練を行う
11:30	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下2周の歩行練習を行う
	口腔体操	昼食前に口のマッサージなど口腔体操を行う
12:00	昼食、休憩	
13:15	作品づくり	季節の作品づくりを行う
14:00	集団レクリエーション	担当者がゲームや体操など計画を立て行う
	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下2周の歩行練習を行う
15:15	喫茶	コーヒーや紅茶などを飲みながら談笑される
	帰宅準備	トイレや着替えなど帰宅準備を行う
16:00	下肢の体操	かかと上げや足ふみなどを行う
16:15	送りの車出発	各送迎車に送迎を行う

4.要介護度別利用者数

要支援1	3
要支援2	5
要介護1	12
要介護2	7
要介護3	6
要介護4	6
要介護5	2
合 計	41

単位:人

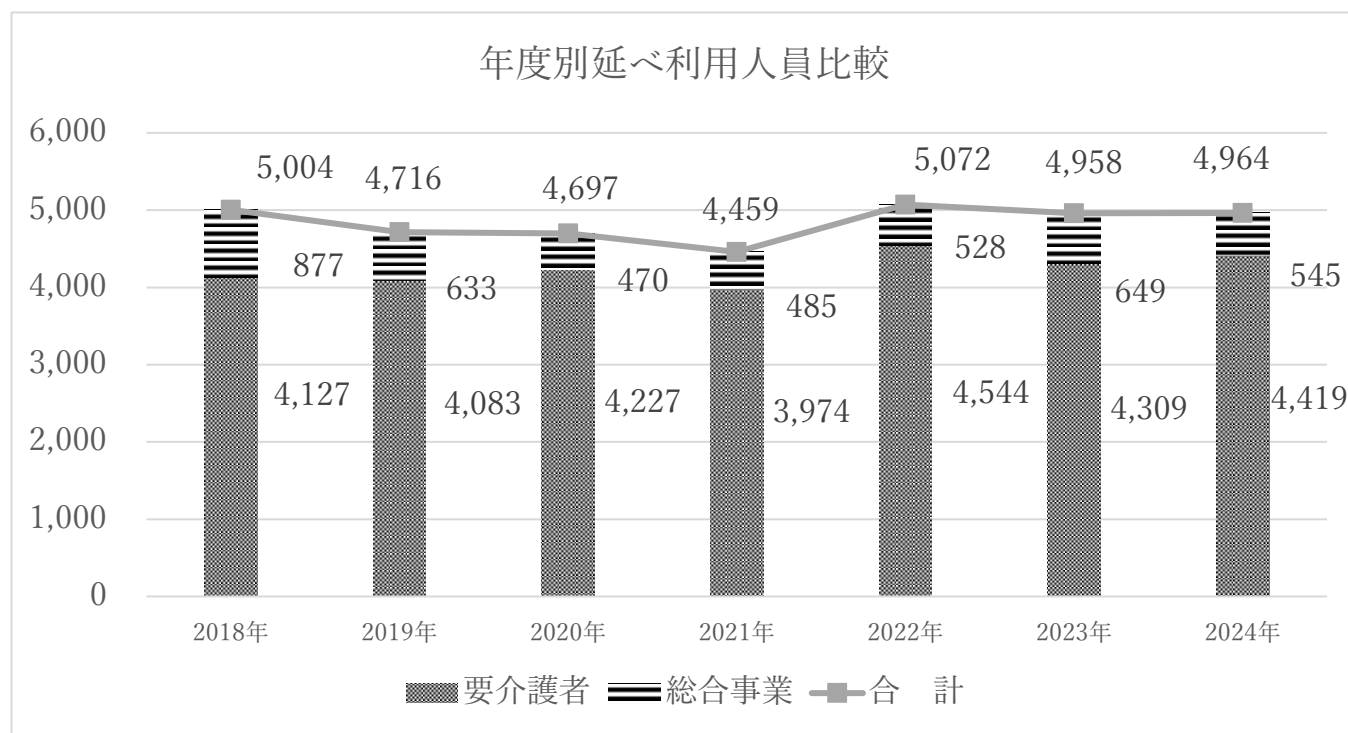


事業実績(花さきデイサービス)

年度別延べ利用人員比較

単位:人

	稼働日	延べ利用者数			1日平均利用		合 計
		要介護者	総合事業	合 計	要介護者	総合事業	
2018 年	308	4,127	877	5,004	13.4	2.8	16.2
2019 年	300	4,083	633	4,716	13.6	2.1	15.7
2020 年	305	4,227	470	4,697	13.9	1.5	15.4
2021 年	307	3,974	485	4,459	12.9	1.6	14.5
2022 年	304	4,544	528	5,072	14.9	1.7	16.7
2023 年	305	4,309	649	4,958	14.1	2.1	16.2
2024 年	306	4,419	545	4,964	14.4	1.8	16.2

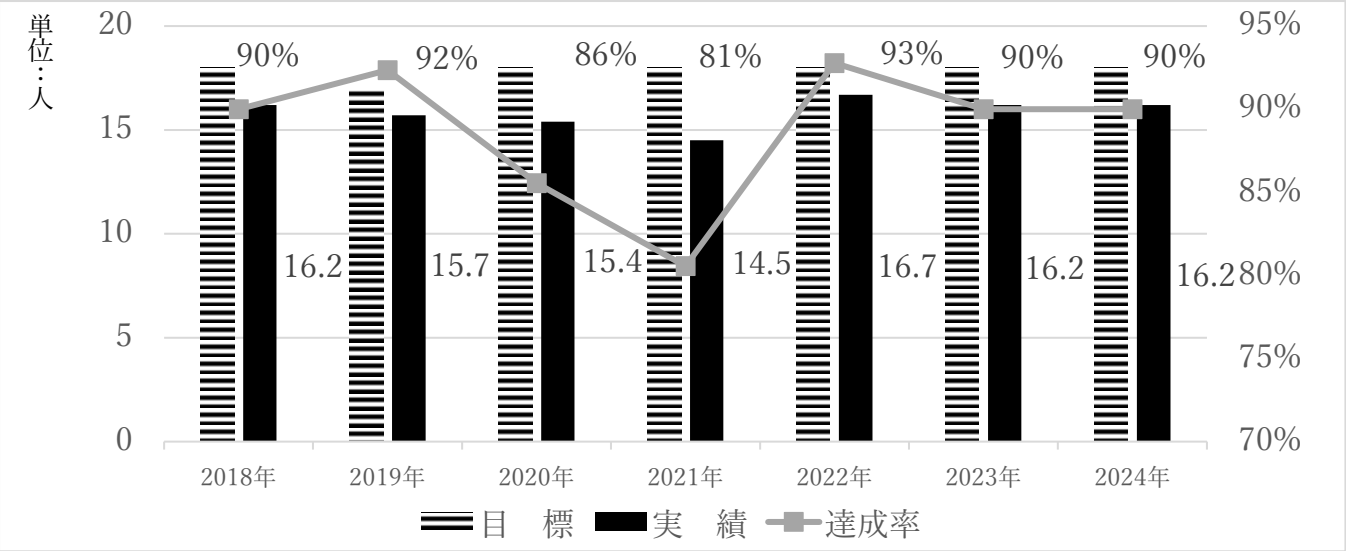


目標と実績比較

1日平均利用者数

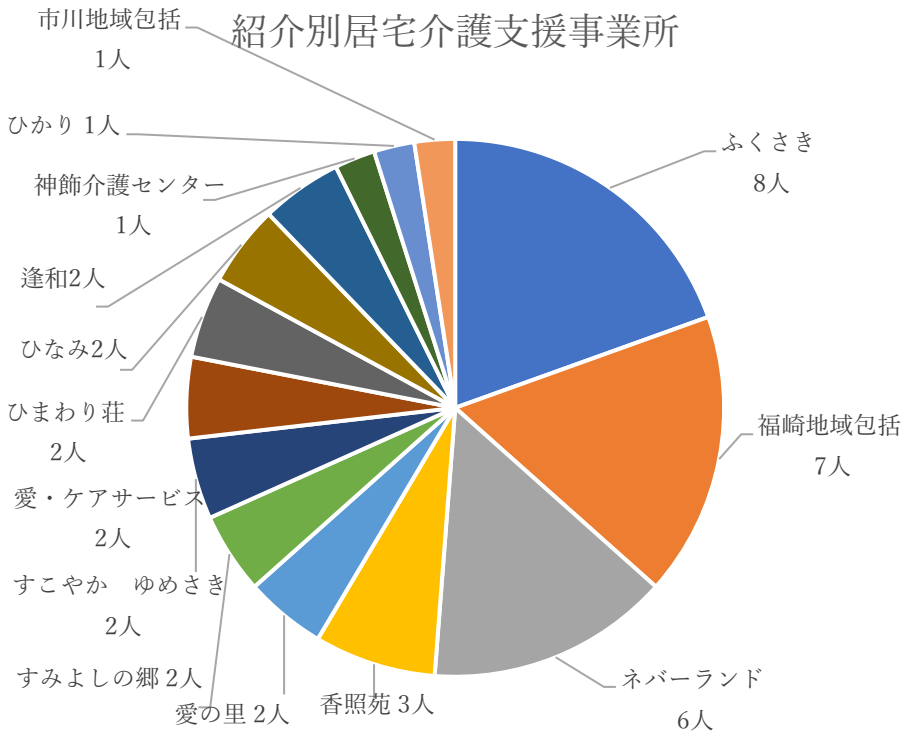
単位:人

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
目 標	18	17	18	18	18	18	18
実 績	16.2	15.7	15.4	14.5	16.7	16.2	16.2
達成率	90%	92%	86%	81%	93%	90%	90%



紹介居宅介護支援事業所 単位:人

1	ふくさき	8
2	福崎地域包括	7
3	ネバーランド	6
4	香照苑	3
5	愛の里	2
6	すみよしの郷	2
7	すこやか ゆめさき	2
8	愛・ケアサービス	2
9	ひまわり荘	2
10	ひなみ	2
11	逢和	2
12	神飾介護センター	1
13	ひかり	1
14	市川地域包括	1
合 計		41



5.目標達成率

平均利用者数/日	目標	結果	達成率
	18 名	16.2	90.0%

(1) 目標達成に至らなかった理由

上半期は、体調を崩される方や入院者も少なく平均16.6名の利用実績があった。他のデイサービスが閉鎖になり利用者を受け入れたこと、定期的に居宅介護支援事業を訪問した結果、ほぼどの曜日も定員20名に達した。しかしショートステイの併用もあり稼働率の上昇には至らなかった

下半期は12月以外、目標数値をかなり下回り平均15.4名の利用だった。要因として以下の3点が考えられる①日常生活動作の悪化により家族の介護量が増加しショートステイ利用回数が増加した②一人当たりの利用回数が上昇したが、体調を崩し長期の休みになり全体として実績が下がった。③新規利用者の紹介のため 居宅介護支援事業を訪問するも利用日の希望に添うことができず利用につながらなかった。

令和5年度新規紹介数は上半期9名、下半期10名 合計19名あった。しかし利用終了者が22名と新規紹介数を上回った。ここ3年間の傾向として春先から新規利用が増え、秋口から体調不良、サービス変更があり稼働率が低下している。以上の要因により目標達成に至らなかったと考えられる。

そのため目標達成の為に、①入院等での利用継続の判断を適正に行う。②看護職員は利用者の体調管理を行い病気の早期発見治療につなげる。③定期的な事業所訪問を相談員と連携して行う④サービスの変更時は法人サービスの紹介を行う等法人全体としてのサービス利用を継続していただけるように働きかける。

支出に関して、人件費が大半を占めており引き続き ①適正な人員配置で無駄を省く。 ②人財育成を行い多能工として働く。 ③開業10年が経過し修理の増加も見込まれるため丁寧に備品を扱い修繕費の抑制を行う。 3点を実施し支出の抑制に努める

(2) 地域との連携

・介護相談会「もちはなこん」が2回開催できた。開催日を日曜日から土曜日に変更したことで参加者が8名増えた。西治区から区長、民生委員の参加があり「コロナ以降住民が集まる場所がなくなった」と地域での困りごとを伺うことができた。今後は西治地区と住民が集える場づくりを始めるにあたり地域の方やボランティア等と協力して一緒に作りあげていきたいと思う。

・トライやるウィークの受け入れや新入学生へのロゼッタ作成、福祉体験会への職員参加など福崎西中学校との連携も継続して行えたことで事業所への親近感を持ってもらえた

・近隣コンビニエンスストアの協力で利用者が買い物時、レジを専用に開放してもらえた結果焦ることなく買い物ができた。利用者の買い物や品物を選ぶ楽しみにもつながった

(3) 居宅介護支援事業所との連携

・14か所の居宅介護支援事業所から紹介をうけている。昨年に比べ2事業所増加している。要因として新規申請者の増加があげられる。また取引終了事業所にも顔の見える訪問を継続したこともあげられる。引き続き事業所訪問を行い空き情報の提供を行う

(4) 職員の資質向上

・ケアカルテへの入力記録担当、時間を決めることで一定の成果は上げられた。今後は記録の大切さを説明しながら記録内容を充実させていきたい

・職員の外部研修参加が増加していない。要因として「遠方の為参加できない」の意見があった。今後は、オンライン研修や技術向上の必要性も伝えながら参加を勧める。研修参加後は、事業所内で研修発表の場を設け情報の共有を図っていきたい